

偶感 ぐうかん
(西郷南洲 さいこうなんしゅう)

幾たびか いく 辛酸 しんさん を 歴 へ て 志 こころざし 始 はじ めて 堅 かた し

解説 維新の功労者は豪華な生活をし始め、政治が手ぬるくなつて、事を誤るものが多くなつた。国の行く末を案じならない時に、ぬるま湯に浸ることにカツを入れようとしている。そのためには後に続くものに財産を与えては、汗水流して働かなくなると嘆いているのである。

丈夫 じょうふ 玉碎 ぎよくさい するも 甄全 せんぜん を 恥 は ず

語釈 *辛酸 辛く苦しいこと *丈夫 立派な男子 *甄全 全：瓦のようにつまらないものになつて生きながらえること *遺法 法子孫に残す家訓 *美田 ここでは立派な財産

我が家 わがいえ の 遺法 いほう 人 ひと 知 し るや 否 いな や

通釈 人は辛く苦しいことを何度も経験して初めて志が堅固になるものである。男子は玉となつて碎けるのはむしろ本懐であり瓦となつて生きながらえる事を恥とすべきだ
我が家には先祖から伝わつた子孫の守るべき家訓があるが、世間の人は知っているのであるか。子孫のために財産を買つて残しておくことはしないこれが我家の遺法である

児孫 じそん の 為 ため に 美田 びでん を 買 か わず